研究所だより

（発行）土佐清水市教育研究所
二〇〇九年一月七日
第二七八号
問い合わせ（八二）三〇一六

謹賀新年

あけましておめでとうございます。

二〇〇九年がスタートしました。渾沌として、先の見えない二〇〇八年でしたが、今年こそみなさまにとって、素晴らしい一年になるように願っています。

今年もよろしくお願いします。ともに頑張りましょう。

パラリンピック・・・

～ 最終 ～

車椅子バスケットボールに関わることで、いろいろな障がい者スポーツにも目を向けるようになりました。

事故や、病気で障がいを持ってしまったなかで、思いきり体を動かせるようになり、汗をかくことの喜びは、私たちの想像を超えるものだと思います。

車椅子バスケットボールはある程度からだが動かせる選手ができるのですが、ツインバスケットボール※のように、障がいの重い方もバスケットボールを楽しめるように考えられたものもあります。また、知的障がいのある方々の大会も行われており、私たちの知らないところで、障がい者スポーツはさかんになっています。最近では、健常者の車椅子バスケットボールのチームもできており、障がいのある方たちとの交流がされています。

私はこれらのことを通して、たくさんのことを知り、たくさんのなかまもできました。知らないまま終わるより、知ろうとすることの大切さを感じています。

（文責・山﨑）

※ツインバスケットボールとは

車椅子ツインバスケットボールは、これまで車椅子バスケットボールをやりたいと思っていても、ボールが正規のゴールにシュートしても届かないとか、その早い動きについて行けないとか言った理由で参加できなかった下肢のみではなく、上肢にも障がいを持つ重度障がい者でも参加できるように考案されたスポーツです。

その最大の特徴は、名称の通り〝ツイン〟つまり二組のゴールが設けられているというところにあります。従来の車椅子バスケットボールに使用されている正規のゴールの他に、もう一つの低いゴール（高さ一・二メートル）をセットし、正規のゴールまで届かない選手のためのゴールとしました。さらにその周囲には三・六メートルの円（フリースロー・サークル）があり、シュートする選手を円外と円内に区別しました。そしてこれらのことによって、それぞれの選手が自分の障がいに応じてシュート方法が異なり、独自の役割をゲームにおいて果たすことができるようになったのです。

各部会でのまとめをお願いします。

市教研各部会の総括教研をお願いします。各部会の総括教研の日程が決まりましたら、ご一報いただけるとありがたいです。